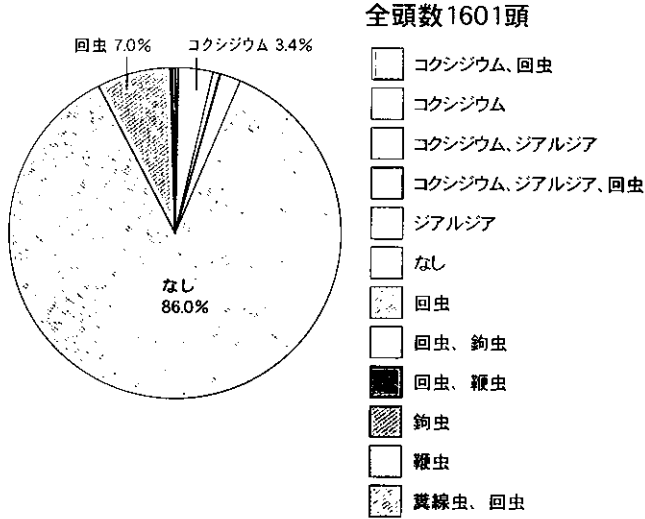


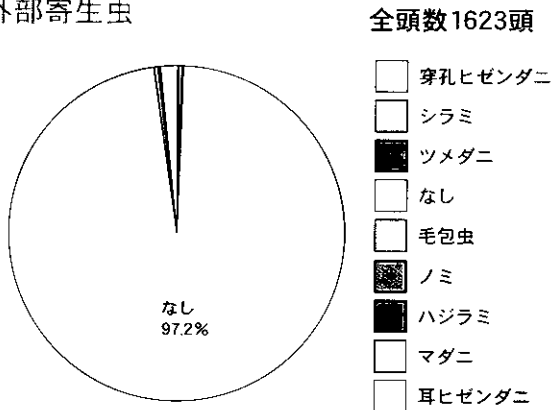
図5 調査犬における内部・外部寄生虫感染状況

内部寄生虫



内部寄生虫の発生率は、すべてを合計すると14%であった。寄生虫種としてはコクシジウムと回虫が多かったが、混合寄生も多く認められた。

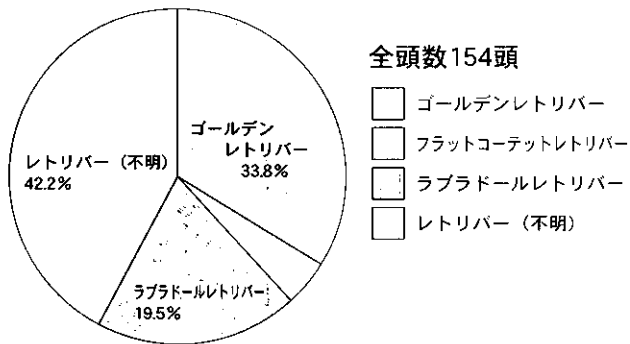
外部寄生虫



外部寄生虫の発生率は3%に満たず、内部寄生虫と比べてはるかに低かった。

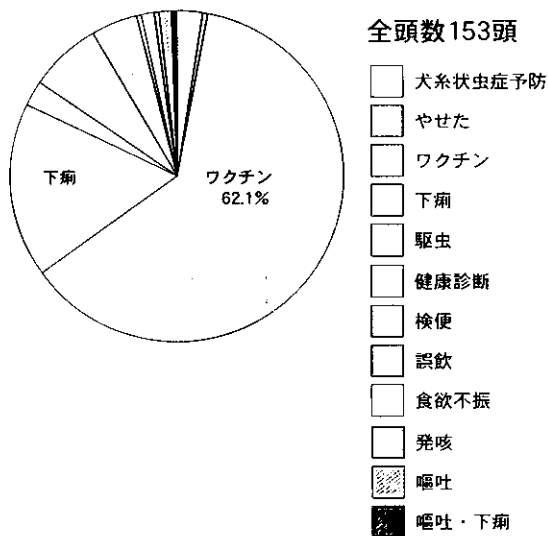
図6 レトリバー種の犬種の内訳および来院理由

レトリバー種における結果：犬種



詳細な品種が不明なレトリバーが多いが、ラブラドルよりもゴールデンの方が多く飼育されているようである。

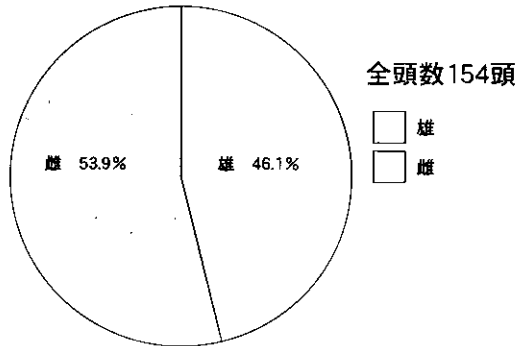
レトリバー種における結果：来院理由



ワクチン接種による来院がもっとも多かった。

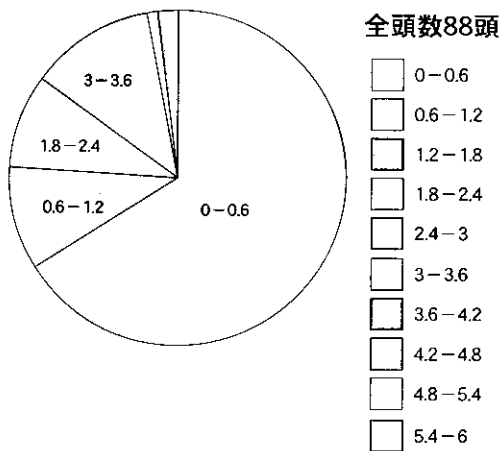
図7 レトリバー種の性別、年齢、体重

レトリバー種における結果：性別



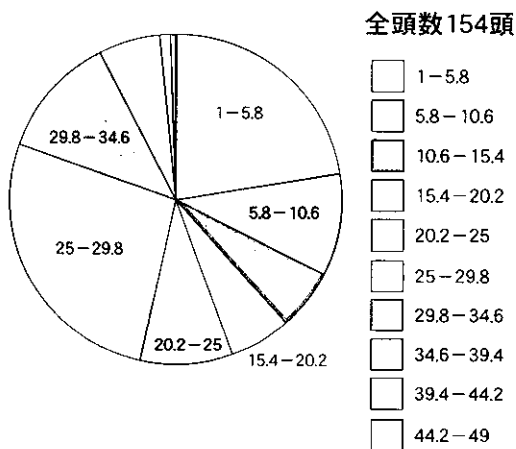
レトリバー種においても雌の方がやや多かった。

レトリバー種における結果：年齢



平均年齢1.0歳と若齢なものが多かった。

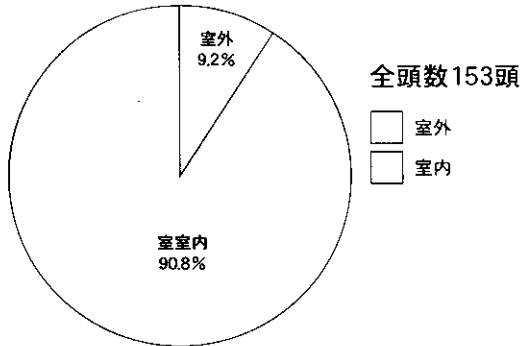
レトリバー種における結果：体重



若齢のものが多かったにもかかわらず、体重20kg以上のものが過半数を占めていた。

図8 レトリバー種の飼育環境

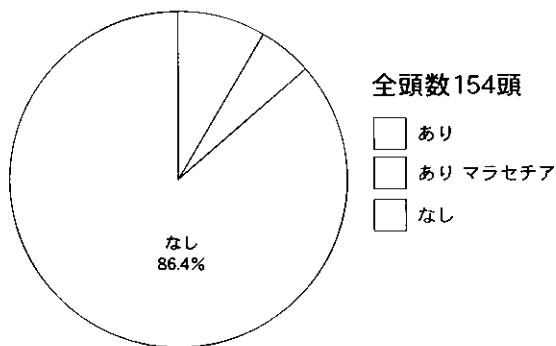
レトリバー種における結果：飼育環境



大型犬にもかかわらず、室内飼育が多いという結果であった。

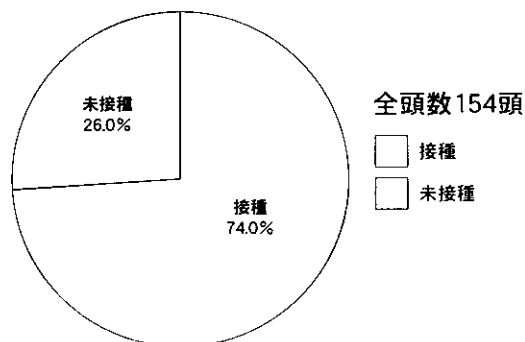
図9 レトリバー種におけるワクチン接種および外耳炎発生状況

レトリバー種における結果：外耳炎



外耳炎の発生率は13.6%と、全犬種の11%よりわずかに高い結果を示したにすぎなかった。

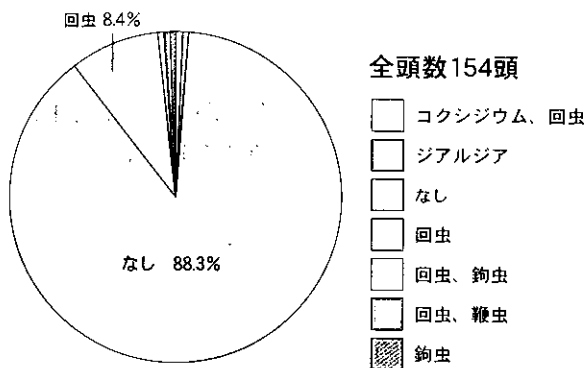
レトリバー種における結果：ワクチン接種



ワクチン接種率は低いですが、これも初回ワクチン接種の犬が多いためであると考えられる。

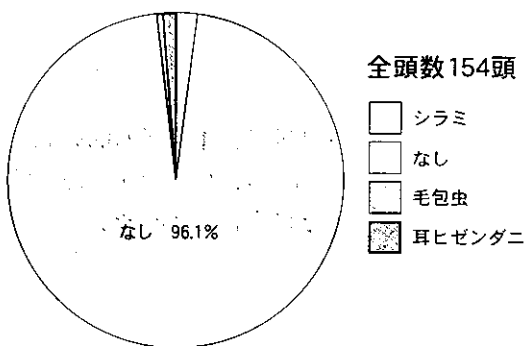
図10 レトリバー種における内部・外部寄生虫感染状況

レトリバー種における結果：内部寄生虫



内部寄生虫の寄生率は11.7%であった。

レトリバー種における結果：外部寄生虫



外部寄生虫の寄生率は3.9%と低かった。

2) 神奈川地区

調査者：金重 辰雄

調査集計時期：平成14年3月

目的

神奈川地区において飼育されている犬の飼育状況および疾病の発生状況、とくに内部および外部寄生虫の感染状況を調査することにより、公衆衛生上問題となる疾患の発生状況を把握する。

方法

ここ数年の間に神奈川の動物病院に来院した2638頭の犬のデータをretrospectiveに調査し、それを解析することにより、飼育状況および疾病の発生状況を推察した。

データの解析には統計ソフト（StatView）を用いた。

また、公衆衛生上、人に接する機会の多いレトリバー種（183頭）におけるデータを抽出し、これに関しても同様に解析を行った。

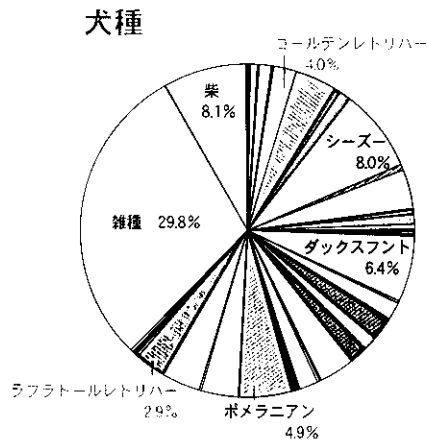
結果・考察

結果は次ページ以降にグラフにて示した。また、結果に関するコメントも併記した。

まとめ

神奈川地区では、雑種犬の室内飼育が多く、また純血種でも小型犬が多く、大型犬の割合が少ない傾向があった。全般的に都会では外部寄生虫（ノミ、マダニ）の寄生が多いこと、またレトリバー種でも犬糸状虫症予防を行っていないものが相当数いることが分かった。レトリバー種においても室内飼育が多いという結果が得られたものの、身体障害者補助犬として人と接する機会が多いことを考慮すれば、外部寄生虫の感染予防や犬糸状虫症の予防は徹底して行うべきであろう。

図1 調査犬の内訳

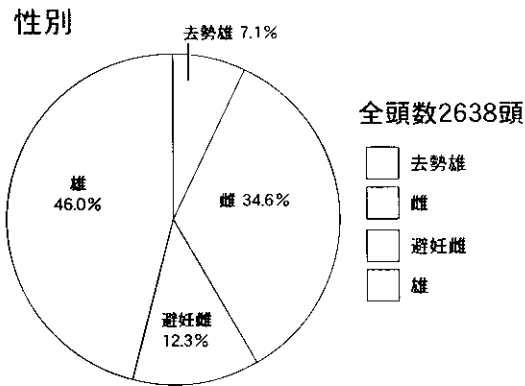


様々な犬種が飼われているが、雑種の割合が比較的多いといえる。レトリバー種の占める割合は7%程度である。ラブラドルよりもゴールデンの方が若干多く飼われている。

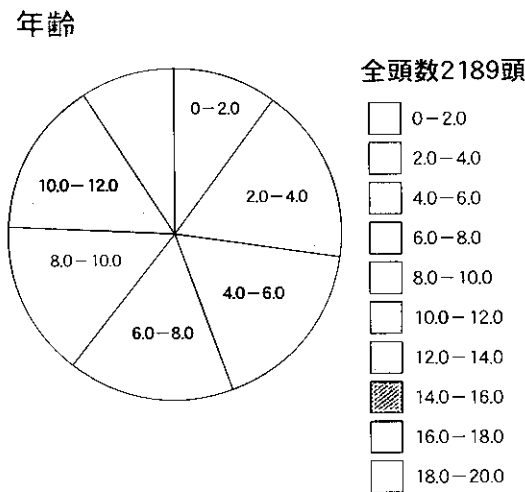
全頭数2638頭

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> T.M.テリア | <input type="checkbox"/> アイリッシュセッター |
| <input type="checkbox"/> アフガンハウンド | <input type="checkbox"/> アメリカンエスキモー |
| <input type="checkbox"/> ウエスティ | <input type="checkbox"/> エアデールテリア |
| <input type="checkbox"/> オーストラリアンケルビー | <input type="checkbox"/> オールドイングリッシュ・シープドッグ |
| <input type="checkbox"/> ギャバリア | <input type="checkbox"/> ケアンテリア |
| <input type="checkbox"/> ケルビー | <input type="checkbox"/> コーギー |
| <input type="checkbox"/> ゴールデンレトリバー | <input type="checkbox"/> コッカーズパニエル |
| <input type="checkbox"/> コリー | <input type="checkbox"/> サモエド |
| <input type="checkbox"/> サルーキー | <input type="checkbox"/> シーズー |
| <input type="checkbox"/> シェパード | <input type="checkbox"/> シェルティ |
| <input type="checkbox"/> ジックラッセルテリア | <input type="checkbox"/> シベリアンハスキー |
| <input type="checkbox"/> シュナウザー | <input type="checkbox"/> シュナウザー |
| <input type="checkbox"/> スコッチ | <input type="checkbox"/> スピッツ |
| <input type="checkbox"/> スプリングスパニエル | <input type="checkbox"/> セッター |
| <input type="checkbox"/> セントバーナード | <input type="checkbox"/> ダックスフント |
| <input type="checkbox"/> ダルメシアン | <input type="checkbox"/> チャウチャウ |
| <input type="checkbox"/> チワワ | <input type="checkbox"/> チン |
| <input type="checkbox"/> トイプードル | <input type="checkbox"/> ドーベルマン |
| <input type="checkbox"/> バーニーズ | <input type="checkbox"/> バグ |
| <input type="checkbox"/> ハスキー | <input type="checkbox"/> バビヨン |
| <input type="checkbox"/> ビーグル | <input type="checkbox"/> ビションフリーゼ |
| <input type="checkbox"/> ビレネー | <input type="checkbox"/> ブードル |
| <input type="checkbox"/> フォックス・テリア(ワイ) | <input type="checkbox"/> フラットコートドレトリバー |
| <input type="checkbox"/> ブリタニースパニエル | <input type="checkbox"/> ブルターニュ |
| <input type="checkbox"/> ブルテリア | <input type="checkbox"/> ブルドック |
| <input type="checkbox"/> プロット | <input type="checkbox"/> ペアデッドコリー |
| <input type="checkbox"/> ベキニーズ | <input type="checkbox"/> ベトリントンテリア |
| <input type="checkbox"/> ボーダーコリー | <input type="checkbox"/> ホイベット |
| <input type="checkbox"/> ポインター | <input type="checkbox"/> ポクサー |
| <input type="checkbox"/> ポストンテリア | <input type="checkbox"/> ポメラニアン |
| <input type="checkbox"/> ボルゾイ | <input type="checkbox"/> ホワイトテリア |
| <input type="checkbox"/> マルチーズ | <input type="checkbox"/> ミニチュアピンシャー |
| <input type="checkbox"/> ヨークシャーテリア | <input type="checkbox"/> ラサアプソ |
| <input type="checkbox"/> ラブラドルレトリバー | <input type="checkbox"/> ワイアーヘアード |
| <input type="checkbox"/> ワイアーフォックステリア | <input type="checkbox"/> 紀州 |
| <input type="checkbox"/> 甲斐 | <input type="checkbox"/> 雑種 |
| <input type="checkbox"/> 四国犬 | <input type="checkbox"/> 柴 |
| <input type="checkbox"/> 秋田 | |

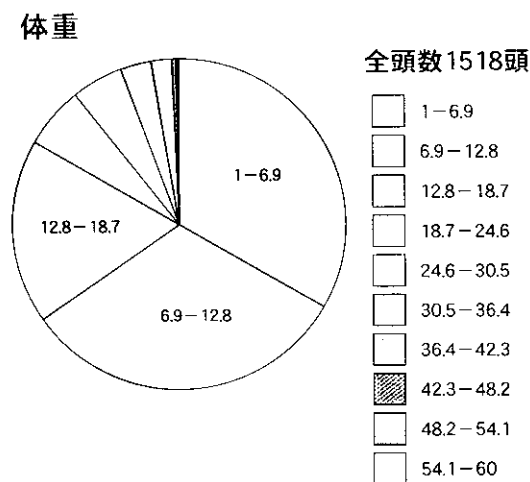
図2 調査犬の性別、年齢、体重



雄の方がやや多く飼われている。



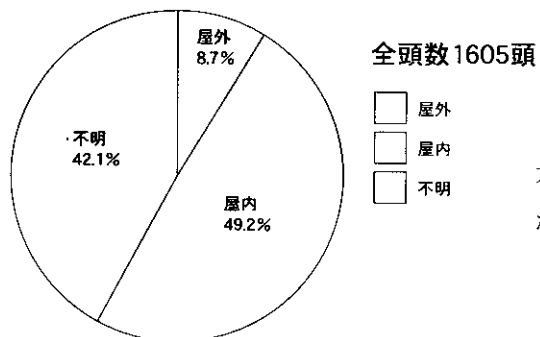
若齢から高齢まで偏りのない年齢分布であると思われる。高齢のものが若干多いのはこの年齢になると病気に罹りやすくなり、来院する機会が多いためであろう。



体重20kg以下の小型～中型犬がほとんどを占める。このことは他地区との比較をしなければ確実なことはいえないが、都会での住宅事情による可能性がある。

図3 調査犬の飼育環境

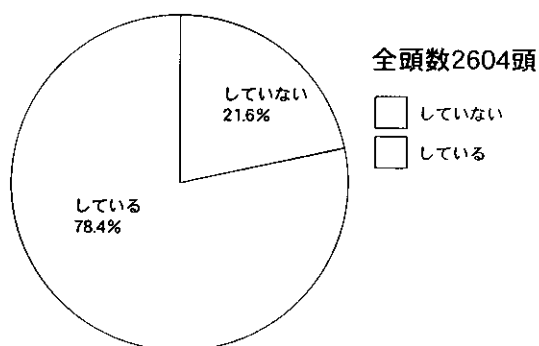
飼育環境



不明が多いが、判明しているものの15%が屋外で飼われていた。

図4 調査犬における犬糸状虫症予防

犬糸状虫症予防



神奈川地区は古くから犬糸状虫の濃厚感染地域であり、そのため犬糸状虫症の予防が十分に浸透している地域といわれている。しかし、現実には動物病院に来院する犬においてさえ犬糸状虫症予防をしていないものが2割強を占めていた。

図5 調査犬における内部・外部寄生虫感染状況

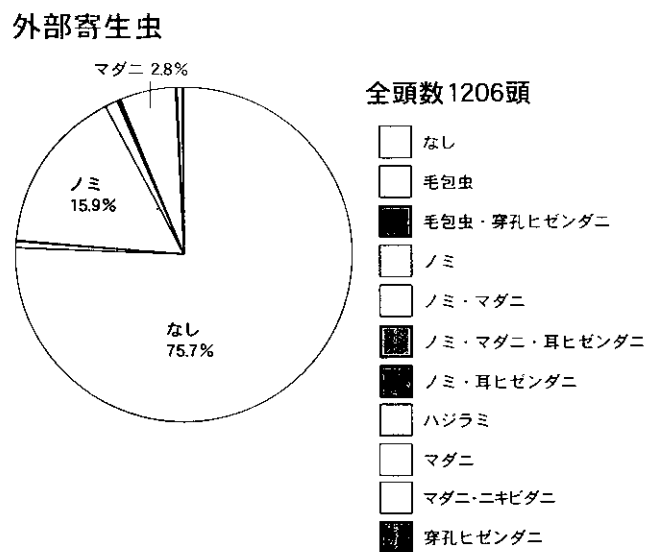
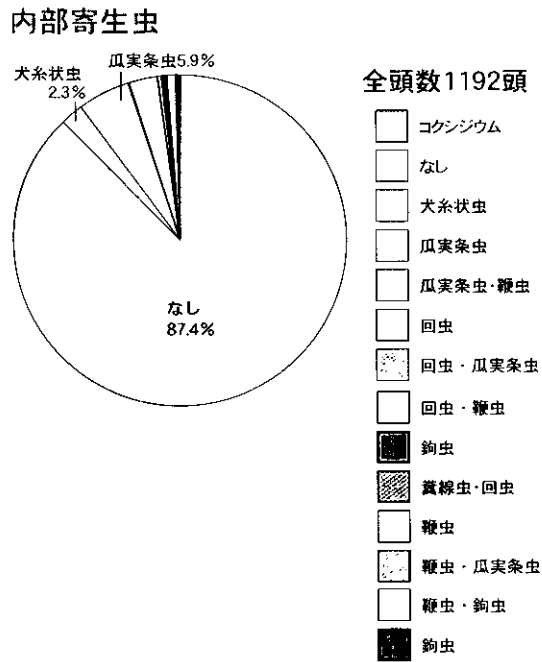
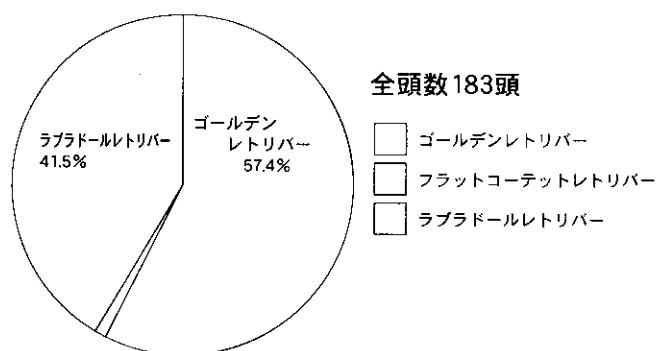


図6 レトリバー種の犬種の内訳

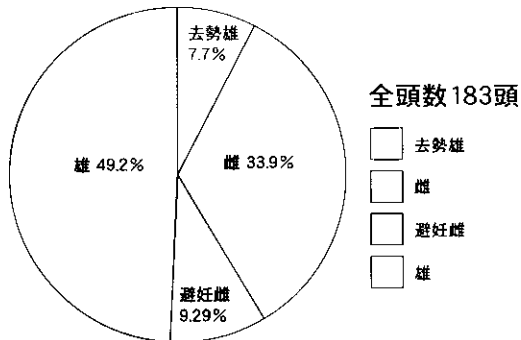
レトリバー種における結果：犬種



ゴールデンの方がラブラドルに比べて多く飼育されているようである。

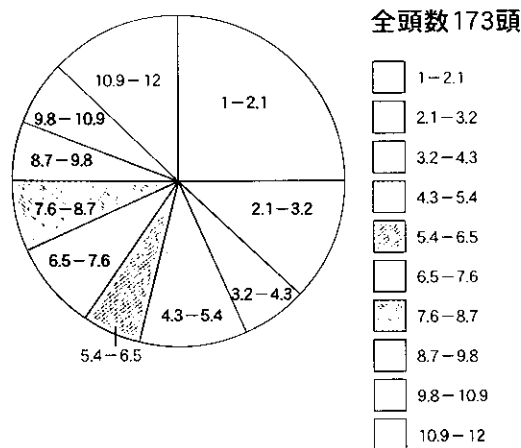
図7 レトリバー種の性別、年齢、体重

レトリバー種における結果：性別



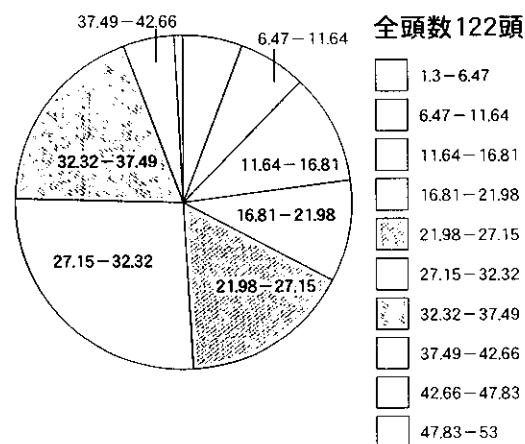
全犬種で見た場合と同様、雄の方が多く飼われているが、大きな差ではない。

レトリバー種における結果：年齢



平均年齢5.7歳。若い個体および10歳以上の老齢の来院件数が多いが、おおむね偏りのない分布を示している。

レトリバー種における結果：体重



平均体重24.9kgであった。20kg以上の個体が7割以上を占めている。

図8 レトリバー種の飼育環境

レトリバー種における結果：飼育環境

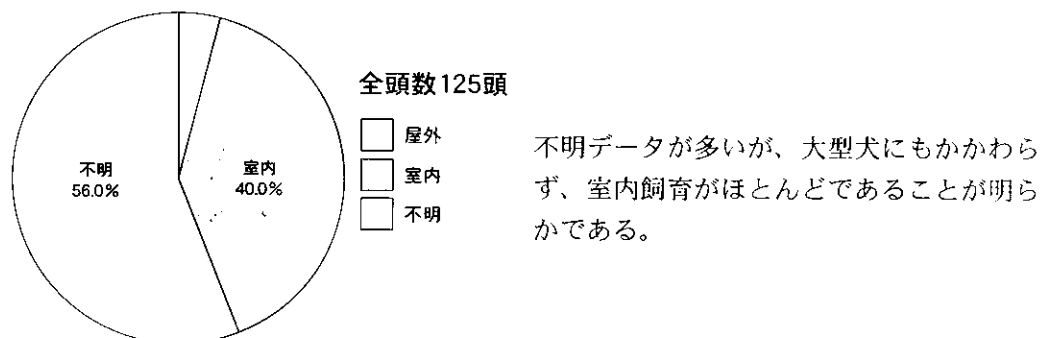


図9 レトリバーにおける犬糸状虫症予防

レトリバー種における結果：犬糸状虫症予防

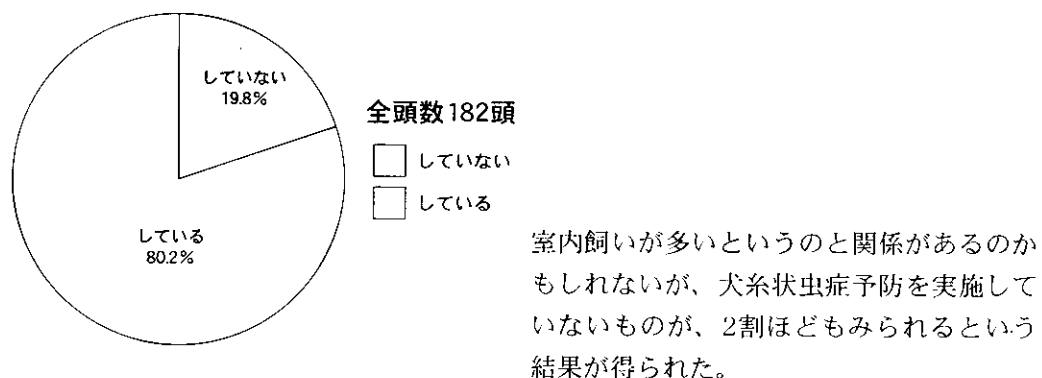
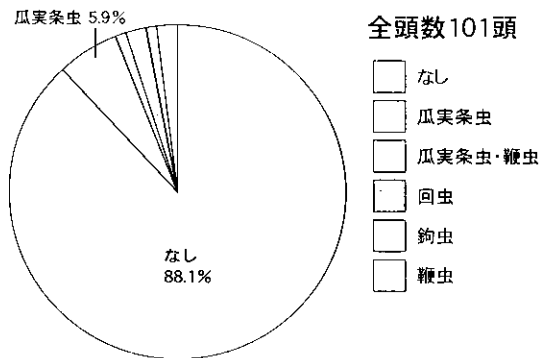


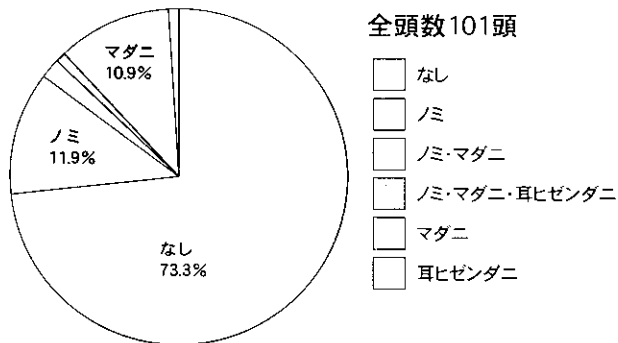
図10 レトリバー種における内部・外部寄生虫感染状況

レトリバー種における結果：内部寄生虫



瓜実状虫が比較的多いが、内部寄生虫の感染率自体はそれほど高いものではなかった。

レトリバー種における結果：外部寄生虫



ノミ、マダニを中心に、3割近い寄生率を示した。

3) 鳥取地区

調査者：高島 一昭

調査集計時期：平成14年3月

目的

鳥取地区において飼育されている犬の飼育状況および疾病の発生状況、とくに内部および外部寄生虫の感染状況を調査することにより、公衆衛生上問題となる疾患の発生状況を把握する。

方法

ここ数年の間に鳥取（倉吉市）の動物病院に来院した3591頭の犬のデータをretrospectiveに調査し、それを解析することにより、飼育状況および疾病の発生状況を推察した。

データの解析には統計ソフト（StatView）を用いた。

また、公衆衛生上、人に接する機会が多いレトリバー種（326頭）におけるデータを抽出し、これに関しても同様に解析を行った。

結果・考察

結果は次ページ以降にグラフにて示した。また、結果に関するコメントも併記した。

まとめ

鳥取地区では、雑種犬が多く、大型の純血種はあまり飼育されていないが、例外的にゴールデンレトリバーやラブラドルレトリバーは比較的多く飼育されていた。これらの犬種で高齢なもの来院が少ないのは、寿命が短いためか、あるいは飼われ始めて日が浅く、高齢の個体がまだ少ないためと推測された。

図1 調査犬の内訳

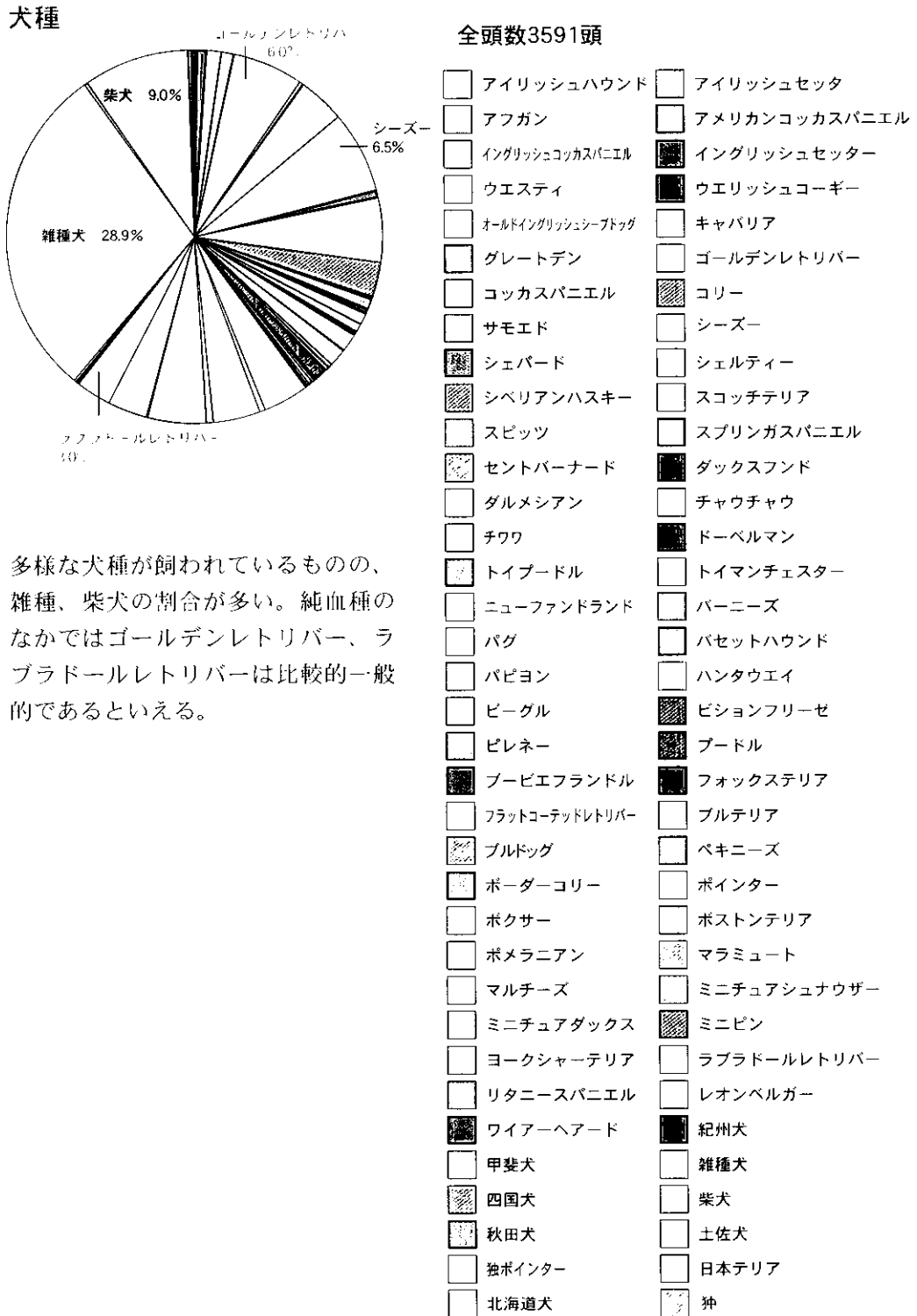
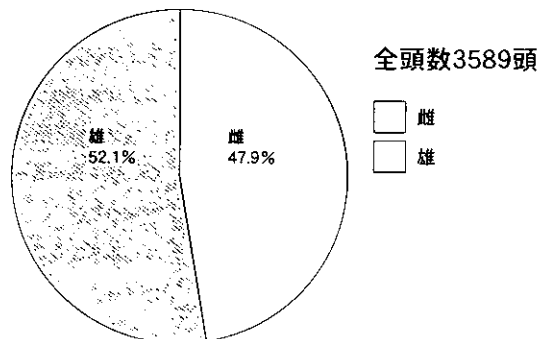


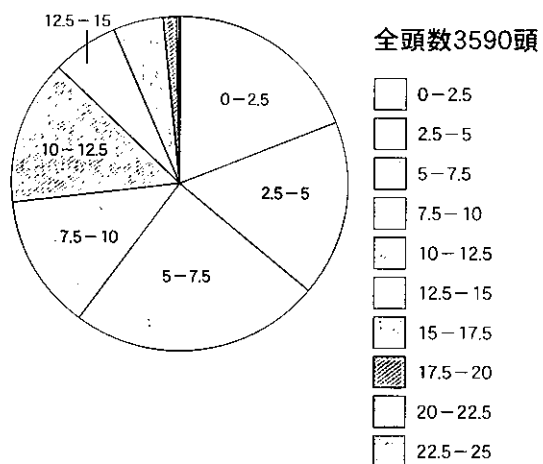
図2 調査犬の性別、年齢

性別



雄の個体がやや多かった。

年齢



5~7.5歳の個体がわずかに多いが、全体的にはバランスよく分布している。

図3 レトリバー種の犬種の内訳

レトリバー種における結果：犬種

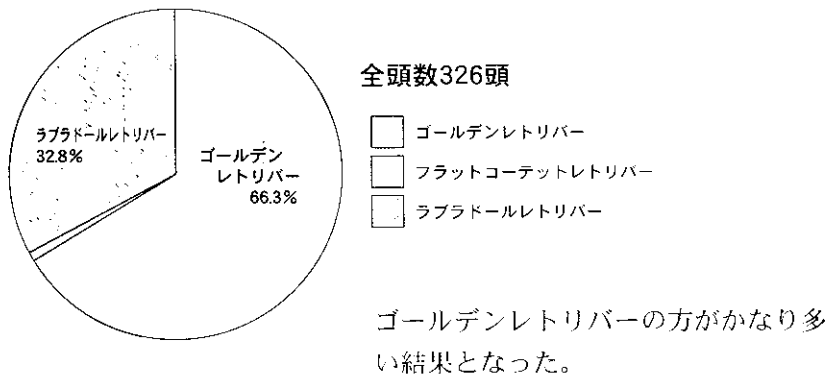
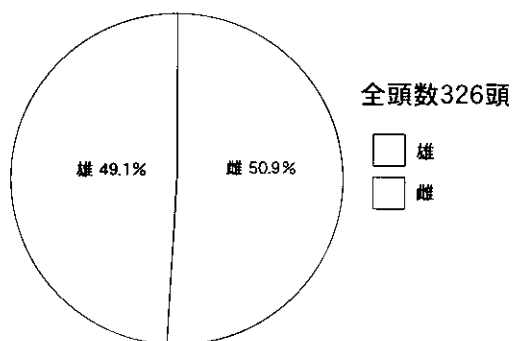


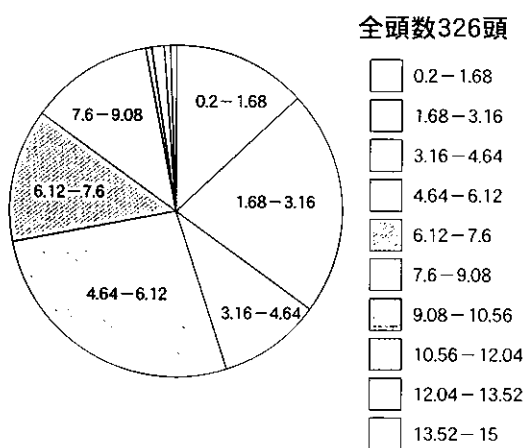
図4 レトリバー種の性別、年齢、体重

レトリバーにおける結果：性別



雌の方がやや多いが、ほとんど差がない。

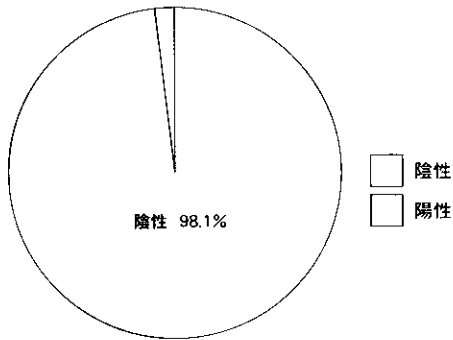
レトリバーにおける結果：年齢



比較的若い個体が多かった。

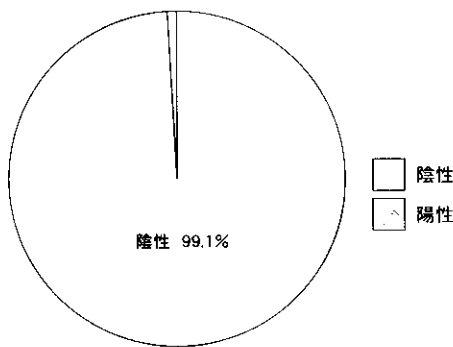
図5 調査犬における寄生虫感染率

犬糸状虫



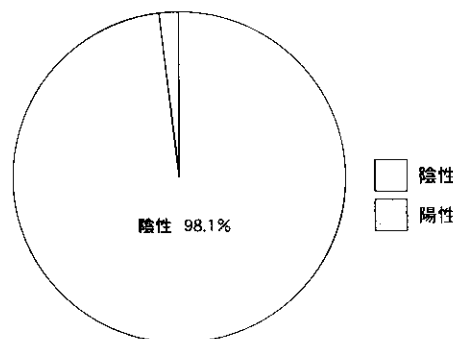
犬糸状虫の感染は非常に低かったが、本データは動物病院に来院している犬についてのものであり、来院しない個体のなかには、相当数の感染犬が存在している可能性がある。

消化管内寄生虫



消化管内寄生虫も少なかった。

外部寄生虫



外部寄生虫も少なかった。